

高知県の産業振興の取り組み～企業との連携で社会的イノベーションを～



人口減少に苦しむ自治体が多い中、高知県では2009年に策定された「高知県産業振興計画」の下、県外市場に打って出て「外貨」を稼ぐ「地産外商」を柱とする取り組みにより、大きな成果を挙げている。尾崎正直知事が、産業振興の取り組みや企業への期待について語った後、経済同友会との連携について意見交換を行った。

講演：尾崎正直氏 高知県知事

1967年高知県高知市生まれ。東京大学経済学部卒業後、91年大蔵省（現財務省）入省。2006年より内閣官房副長官秘書官。07年に高知県知事選挙に出馬し、40歳で初当選。現在三期目。

持続可能な社会の実現に向けて意欲ある自治体と連携を

地方創生委員会（隅修三委員長）は、地方の産業振興の取り組みで大きな成果を挙げている尾崎正直高知県知事を招き、全会員を対象とした特別講演会を開催した。高知県は、官民協働や民間人材の活用等にも積極的に取り組んでおり、尾崎知事より、経済同友会の会員所属企業と連携して、新規事業の創出や、人材やビジネスのマッチングに取り組みたいという案が提示された。

経済同友会では、昨年11月に持続可能な社会の実現に向

けて「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」に取り組むことを発表した。このプロジェクトの一環として、自治体、首長、地方議会、地方大学、地方企業等との人的ネットワークの強化を掲げている。

尾崎知事の講演を受けて隅委員長は、「行動する経済同友会として、意欲ある自治体と連携し、農林水産業、観光、地域発イノベーションなど重点テーマを設定して、具体的活動を展開したいと考えていた。多くの企業に参加してもらい、さまざまな知恵を出し合っていきたい」と応え、会員からも活発な発言があった。

尾崎正直高知県知事【講演概要】

人口減少の負のスパイラルを止める四つの政策群

高知県では、人口減少の負のスパイラルが続いている。人口の自然減や高齢化の進展が経済規模を縮小させ、若者の県外流出が進み、過疎化・高齢化の同時進行による孤立化が起り、特に中山間地域の衰退、少子化の加速を招いている。それらによってさらなる人口減少の危機に直面している。

これを止めるには、若者の定着・増加と出生率の向上が欠かせない。そのために「経済を活性化させ雇用を創出する」「若者の県外流出の防止と県外からの移住者の増加」、そして「特に出生率が高い傾向にある中山間地域の若者の増加」「希望をかなえる『結婚』『妊娠・出産』『子育て』」という四つの政策群の好循環を生み出すことが重要だと考えている。

そこで高知県では、「産業振興計画」を実行し、「地産外商」をその戦略の柱としている。地産地消を徹底した上で、外に打って出て、「外貨」を稼がなければいけない。しかし、地産の強化に関しては、高齢化の加速、狭隘な土地、下請け企業が多いといった課題がある。そこで新技術の導入等による生産性と付加価値の向上、事業戦略の策定・実行支援に取り組んでいる。

また、外商の強化に関しては、小規模・零細事業者が多く、各企業での対応が難しいことから、高知県地産外商公社等のプラットフォームを設置した。人材の確保も重要であり、人材育成事業を展開するとともに移住促進策に取り組んでいる。

「産業振興計画」がもたらした大きな成果

重点対象となる産業分野は、高知県

が比較優位にある第一次産業の振興である。派生する食品産業やものづくりにも取り組んでいる。また、観光（自然・歴史・食）、防災関連事業、コンテンツ関連産業の育成も進めていく。

産業振興計画の策定・実行には三つのポイントがある。一つは計画全体の進捗管理の徹底、二つ目は官民協働、市町村政との連携・協調だ。それによって、三つ目のポイントである好循環とネットワークの創出につなげていく。特にボトルネックの解消と、けん引役をつくることを重点に取り組んでいる。

ネットワークづくりについては、出生率、農業産出額、自然、歴史や文化などの面で、中山間地域こそが高知県の強みであり、その再生なくして中長期的な成長は確保できない。そこで、地域の特産品を活かした237の地域アクションプランに取り組んでいる。また、集落と周辺地域に向けて「集落活動セ

ンター」をつくり、福祉と経済の拠点としている。県外企業とのネットワークづくりにも取り組んでおり、環境保全、地産外商、移住促進、地方創生全般まで、さまざまな企業と連携した施策を進めている。

これまでの産業振興計画の取り組みによって、各分野で地産外商が前進した。県外からの移住者が増加し、観光客も増えた。それによって新たな雇用が生まれ、被雇用者数も大幅に伸びた。生産年齢人口が減少を続ける中でも、各分野の産出額等が上昇傾向に転じたことは大きな成果である。有効求人倍率は2016年6月に過去最高の1.16になり、県民所得も上昇するなど、経済全体が良い方向に向かっている。

このように短期でみれば多くの成果があった一方で、人口減少の負のスパイラルはまだ続いている。人口の社会減は止まらず、自然減も進んでいる。合計特殊出生率も依然低迷している。

「地産外商」を「拡大再生産」につなげる

これまでの取り組みにより、「地産」と「外商」は進んだが、今後はこれを「拡大再生産」につなげられるかどうか鍵になる。そこで2016年度からの「第三期産業振興計画」では、「担い手の育成・確保」「地域産業クラスターの形成」「起業や新事業展開の促進」の三つを柱にしている。

担い手の育成・確保については、移住促進や事業承継・人材確保センターを通じた人材確保のサポートなどを行っている。地域産業クラスターの形成については、次世代型ハウスを活用したトマトの産地拡大プロジェクトなど18のプロジェクトに取り組んでいる。こうしたプロジェクトを通して関連産業も含めて、第一次産業から第三次産業までの若者が地方に残れる多様な仕事を創出する。

また、起業や新事業展開の促進については、持続的に新たな挑戦が可能な環境をつくるよう努力を続けている。

そうした一環として、ビジネスの基礎から実践力まで身に付けられる人材育成プログラム「土佐MBA(土佐まるごとビジネスアカデミー)」による事業家支援等も行っている。

経済同友会との連携で社会的イノベーションを

人口減少に伴う多くの課題を抱える課題先進県である高知県は、これを解決して課題解決先進県を目指したい。そのために、ぜひ経済同友会の皆さまと連携して、新たなビジネス領域の創出、企業人材のキャリアの充実と新事業展開などの社会的イノベーションを起こしたい。

ファーストステップとして、企業と地域との交流ネットワークづくり、具体的には集落活動センター等を活用し

た視察、社員研修、新技術の実証実験等をお願いしたい。また、地産の強化という観点からIoTを活用した産業活性化に向けた研究のレベルアップが必要であり、高知県IoT推進ラボ研究会の取り組みの支援などをお願いしたい。

さらに、外商の強化という観点からCLT(直交集成板)を核とする木材需要の拡大や各種ビジネスマッチングが必要になる。そこで都市の木造化に向けて、皆さまとの協働によりCLTの普及拡大を進めたい。

こうした取り組みを拡大再生産につなげるためには、人材・ビジネスマッチングも重要であり、協力をお願いしたい。特に高知県では休廃業する業者が多いことから、事業承継・人材確保センターの求人情報を提供する企業の拡大に協力をいただきたい。

質疑応答

Q 建築家・隈研吾氏の名を世界に轟かせたのは梶原の木の建築の作品群である。直島には安藤忠雄氏の作品を観るために各国から人が来ている。梶原の隈氏の建築で、芸術・建築関係者を世界から引きつけられるのではないかと。

A 隈氏が新国立競技場を設計されたこともあって梶原の作品を見学に来られる方が増えている。隈氏とのタイアップを深められないか以前から考えて

いたが、さらなる検討をしていきたい。

Q 自社は被災地で、集成材を使って小中一貫校を設計・竣工した。CLTの活用では、公園や動物園などのトイレのモデル開発・試作といったことがCLT協会などを中心に考えられないか。自分もできるかぎり協力したい。

A そのような提案は非常にありがたい。汎用モデルの試作というのは良いアイデアだと思う。

連携イメージ(対象分野と想定活動)

カテゴリー	参加企業の業種	活動例
① 企業と地域との交流ネットワーク(中山間地域)	・全業種	・集落活動センターの社員研修利用 ・経済同友会会員による現地視察ツアー参加 ・社員/社員家族等による中山間地域訪問 ・環境先進企業との協働の森づくり事業への参加 ・中山間地域の社会課題解決に向けた実証実験
② IoTを活用した産業活性化に向けた研究のレベルアップ	・IT/データ/通信業 ・製造業 ・防災関連 ・医療/ヘルスケア ・観光業	・高知県IoT推進ラボ研究会への参加/オブザーブ ・中山間地域の社会課題解決に向けた実証実験(再掲) ・防災態勢の強化 ・食品トレーサビリティの構築 ・データ活用による観光政策の高度化等
③ CLTを核とした木材需要の拡大	・設計/建築事務所 ・建設業/ハウスメーカー/内装事業者等 ・不動産/ホテル業等 ・製造業 ・木材/CLTユーザーとしての全業種	研究会を組成し、以下の分野等の検討を行う 木材の安定調達の仕事構築 CLTの設計/施工事例の普及方法 林業の加工/物流工程等における改善 自社ビルへの木材・CLT等活用
④ 人材・ビジネスマッチング	・全業種 ・特に食品加工分野等製造業	・企業人事部との打ち合わせ シニア人材等活用における現状・課題の深掘り ・技術マッチング可能性の検討とマッチング会合の開催企画